

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

小浜市立雲浜小学校（福井県）【指定校】

【取組内容】 協働的な学び・個別最適な学びの一体的な充実

児童が学び方を選択する授業作り

何を学ぶのか(学習課題)、誰と学ぶのか(学習形態)、どのように学ぶのか(学習過程)など、様々な学び方を児童が選択したり、自分で決めたりする機会を通して、個別最適な学びの実現を目指した。

これまで通りの授業をベースにしながら、学年や学級の実態、教師の願いに合わせて、無理のない形で子どもが決定する割合を調整した授業作りに取り組んだ。また、これまでの学校文化や研究成果も踏まえて、学校として大事にしたい学び方を整理し、共通理解を図った。

低学年は「一人でする」「ペアでする」といった、授業の一部分で自己選択することから始め、学年に応じて自己選択する割合を増やしながら、身に付けた学び方を発揮する場面を作ること、個々の学び方の成長の見取りを行った。



主体的に問題解決に取り組む子どもをめざして					
協働的な学び方・個別最適な学び方			学び方を身に付ける		
①学習課題	②学習過程	③学習形態	きく	思考ツール	振り返り
低学年	0～2 ほぼ教師が決定	0～2 教師や補助して 過程を指示	0～2 教師が決定 学び方を決める	教師が与える	分かったこと できたこと
中学年	3～5 子どもが過程から 選ぶ割合を増やす	3～5 子どもが過程の 一部を選択する 割合を増やす	3～5 教師が範囲を定めて 学び方を決める	聞・聴・訊	もやもや 分らないこと 疑問 考えたこと
高学年	6～8 子どもが過程を 選ぶ割合を増やす	6～8 過程の一部で 子どもが決定 割合を増やす	6～8 子どもが決定 割合を増やす	自分で選択 して使う	自分の学び方 はどうだったか
学びプラン 児童に示す単元計画により 教師が意図をもって指導を調整する			3S学習 ①時間になったら ②新しい仕事 ③次の計画 一人調べ・みんな調べ・集点化・発表		

感想

気付いたこと



目的意識をもって協働する

協働的な学びの充実に向けて、児童が目的意識をもって関わる相手を選ぶことができるような学習環境作りにも取り組んだ。

チャットや共同編集が可能なアプリを活用し、児童それぞれが設定した課題や考えを一覧にして共有した。自分と他者の考えを比較し、自分と同じ考え、異なる考え、もっと深く聞いてみたい考えなどを児童がつかみ、どのような考えの仲間と話したいのか、目的意識をもって関わることで深い学びへとつながるように支援した。

【取組内容】 児童と共有する単元計画「学びプラン」

児童が見通しをもって学習を進める

これまでの指導案では教師が自分の指導のために単元計画を立てていた。その単元計画の部分を児童に示す形にして記載し、児童と共有できる単元計画「学びプラン」を作成し、児童が主語になる授業を意図した。

各学年や教科の実態によって記載する表現を合わせながら、単元全体の時数や学習活動、学習内容を一覧にした単元計画を児童と共有した。児童自身が学習の見通しをもって授業に取り組む中で、児童が何をゴールにしているか、現在どの部分を学んでいるか、どんな力を付けるために学んでいるかを意識させることで、必要な資質能力が育まれていくような授業作りに取り組んだ。

	①	②	③	④	⑤	⑥(本稿)	⑦
学習者のモチベーション	* 興味を使って貰いものを手にする体験を通して、学習意欲を促す。	* 学習問題②「てがを使ってできるだけ小さい力で重いのを持ち上げるにはどうすればいいか」について学習する。	* 実験を行い、結果を確認する。	* 実験者と交流し、学習問題①について自分の考えをまとめる。	学習問題⑤「てがが水平につき合うときにはどのようなやり方があるのか。燃料の基本的な流れを元に、自分で調査を行い、研究を進める。」		
学習内容	● 物を使って貰いものを手にする体験を通して、学習意欲を促す。 ○ このような道具をもてと呼びこめを知ること。 ○ 発見の楽しさとして、てがも活用した道具図案を作ることを伝える。	○ 文法、力点、作動点の用語を理解すること。 ○ 学習問題⑤「てがを使ってできるだけ小さい力で重いのを持ち上げるにはどうすればいいか」について学習する。	* 実験を行い、結果を確認する。	* 実験者と交流し、学習問題①について自分の考えをまとめる。 ○ 力の働きを表す方法について考える。	* 学習問題⑤「てがが水平につき合うときにはどのようなやり方があるのか」について考える。 ○ 実験に実験を行い、結果を確認する。	○ 各台で実験の法(仮説的)法を考えよう。 ○ 力を表す方法を学ぶこと。 ○ 実験に実験を行い、結果を確認する。	* 実験者と交流し、自分の考えをまとめる。
学習形態	個人グループ(生活型)	個人自己選択一斉	個人自己選択一斉	個人自己選択一斉	個人自己選択一斉	個人自己選択一斉	個人自己選択一斉

本時について

(1) 本時の目標

てがも水平につき合うときにより、自分の身のまわりの観察や実験を行うための観察や実験を行ったり、実験を行い、その結果を説明したりすることができるようになる。
 【未知の状況に対応できるように「思考力・判断力・表現力」を高める】

(2) 本時の視点

児童の好奇心に基づいて適切な観察や実験を立てたり、行った結果を観察したりするための観察や実験を行うことや、観察の結果、おもしろい現象を発見していった。

子供たちの観察能力と実験能力を高める

	課題	達成	
観点	子ども	観点	子ども
9	3	7	

★学びプラン（3年生）

文様／こまを楽しむ【じょうほう】全体と中心
～まとまりをとらえて読み、かんそうを話そう～

文 様	①文様やこまについて知っていることを発表し合う。学習のながれをかんにする。
	②「文様」を読み、「はじめ」「おわり」で何の書かれているかを考える。「問い」に対する「答え」を見つける。
	③「こまをまわす」を読み、だんだんかかんにする。文庫本を「はじめ」「中」「おわり」に分け、「問い」を見つける。
	④「問い」に対する「答え」を見つけ、表にまとめる。
	⑤「中」に書かれていないようをよくわきまけ、ひしやなせいくつもの「れい」をそのじゅんばんで書いたのかを考える。

紙コップ花火を作ろう おもちゃの作り方を
せつめいしよう

じかん	べんきょうすること
1	べんきょうの <u>見とおし</u> をもとう。
2	ひっしゃのしごとの中で、一ばん気になったことをつたえあおう。
3	ひっしゃか
4	「あさ」ず
5	「見回りか よう。」



教師も学習の見通しをもつ

学びプランを作成する中で、教師は単元で身に付けさせたい資質能力が育まれていくように構成を考え、児童が学び方を選択する場面について見通しを持たせるようにした。特に、一斉指導で学び方の定着を図る部分と児童に自己選択させる部分とを単元のどこでどのように取り入れていくかを見極めながら、児童が学ぶ力を身につけていくために教師自身が見通しと意図をもって指導を行った。

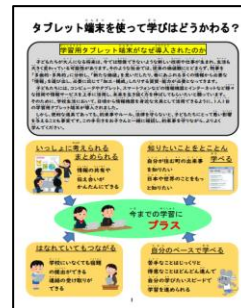
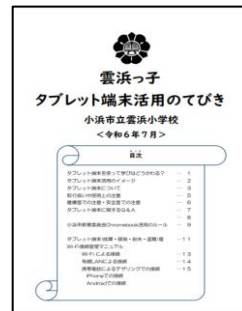
リーディングDXスクール事業 【実践事例】

小浜市立雲浜小学校（福井県）【指定校】

【取組内容】 情報モラル教育の推進

タブレット端末活用の手引きの作成

児童、保護者とタブレット活用の共通理解を図るために、タブレット端末活用の手引きを作成した。手引きを元に、児童への指導や保護者への理解を促すことで、タブレットの望ましい使い方を周知した。



前年度LDX指定校の敦賀南小学校の手引きを元に作成

デジタルシティズンシップについて考える集会の実施

授業等でタブレットを使用する機会が増えるにつれ、校内では休み時間や家庭での使い方について課題も出てきた。そこで、タブレットの使用について見直すきっかけとして全校集会でタブレットを「学び」に使うとはどういうことか教師から課題提示を行った。集会での話を受けて各学級でタブレットの使い方の現状や、よりよい使い方について話し合い、タブレットを学びにつなげる意識の高揚を図った。

児童が主体となりタブレット活用ルールを話し合う

教師からの発信だけでなく、児童主体でのルール作りも進めた。全学年の代表児童が集まり、学級の実態などを交流した。そこで見えてきた実態を踏まえて、全校の目標や低学年・中学年・高学年の目標を児童が考え、全校に周知し、児童からもよりよいタブレットの使い方を発信していく活動に取り組んだ。



リーディングDXスクール事業 【実践事例】

小浜市立雲浜小学校（福井県）【指定校】

【取組内容】 情報の集約化と情報共有の迅速化

職員ポータルサイトの開設

ホームページ作成ツールを用いて職員用ポータルサイトを作成し、運用を行った。クラウド上にアップされた各種データにリンクさせることにより、必要な情報を一元的に管理した。

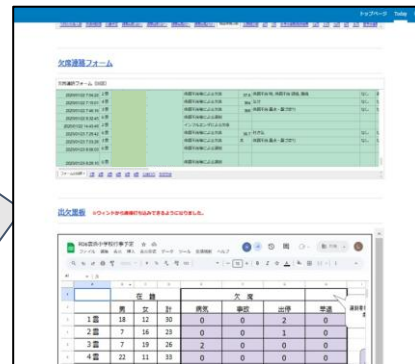
年間行事予定、月間予定、週予定がリンクしているので作成の手間も省け、予定の変更等も即時反映されるため、いつでもどこでも最新の情報を入手することができる。



会議資料、起案文書等をポータルサイト上（ワークスペース）で共有し、共同編集することで、事前に内容を周知でき、会議時間の短縮、ペーパーレス化につなげることができた。



欠席連絡フォームと出欠黒板をポータルサイト上に反映させることにより、朝の時間的余裕の捻出と出欠状況の共有を図った。



リーディングDXスクール事業 【実践事例】

小浜市立雲浜小学校（福井県）【指定校】

【取組内容】 校内研究会をペーパーレスで効率化・効果の最大化

職員・参観者と最新の情報を共有

授業研究会に関する情報を一元化するサイトを開設。校内教職員も参観いただける方も効率よく必要な情報を得ることができるようにした。ペーパーレスで紙での資料を用意する必要がなく、研究会の準備に手間がかからず時間短縮を図ることができた。

事後アンケート

雲浜小学校授業研究会に参加いただきありがとうございました。
本校の研究会全般について、以下の項目でご意見、ご感想をお願いいたします。

共有なし

アカウントを切り替える

1. 「本校の研究（動画視聴含む）」について

回答を入力

2. 「一般参観授業（4校時）」の各授業について

回答を入力

3. 本授業研究会で学ばれたことがありましたらお書きください。

回答を入力

「その他」お気付

回答を入力

研究協議の柱

- ①パドレットを用いて他者参観し、学習形態を選択しながら活動したことは、読み手にとって分かりやすい文章を書くことを意識して「中」の内容を整理するために有効であったか。
- ②子ども自身が学びを進めていく中で、子どもどうしの関わりはどうであったか。
- ③本時の目標を達成するにあたり、教師の支援やICTや掲示物等の学習環境はどうであったか。

Cグループ研究協議で選んだ柱の番号⇒「②③」

Dグループ 研究協議で選んだ柱の番号⇒「②③」

Eグループ

デジタルホワイトボード上で
事後研に参加した全てのメンバーと内容を共有

参観者からのフィードバック

参観者に「参観後の感想」や「事後アンケート」を協力いただく際もリンクを掲載しておくことでGoogleフォームを活用して即時に回答、集約を行った。また、デジタルホワイトボードのリンクを掲載しておくことで、参観者と共有した学びの記録をすべて保存することができ、どちらもフィードバックとして、本校職員の新たな学びに繋げることができた。

本校の研究について

本校の研究についてまとめた動画です。（5分程度）



これまでのあゆみ

4月までこれまでの参観者の参観を掲載しております。



日程



校舎案内図



全体研究授業・講演会会場

本校研究授業（15校時）は休校中に行います。新年度
開始後全グループごとに各教室に併設されています。
観覧席は本校職員室隣にお集まりください。

